



2017年の新春を迎え、 謹んでご挨拶を申し上げます。

東京土木施工管理技士会 会長
飛島建設株式会社
代表取締役社長

伊藤 寛治

会員の皆様には、平素より技士会運営にひとかたならぬご理解とご協力を賜り、有難く厚く御礼を申し上げます。

昨年を振り返りますと、国内においては建設業を取巻く環境は他産業と比べれば幸いにも比較的平穏裏に推移した年ではなかったのか、特に私達技士会の活動の中心エリアである東京においては強い危機感を感じる事象は起きなかったのではないかと考えております。

ただ一方、課題となっている担い手不足については、政府、業界を挙げて、諸処の手立ては実施しているものの、まだまだ十分な効果が表れていない状況でもあります。

技士会と致しましても鋭意、工夫を凝らし、建設業の魅力をアピールをしている所ではありますが、今後も東建と歩調を合わせ活動を継続していきたいと考えております。

さて、技士会と致しましては、昨年は設立20周年を迎えることができ、7月29日(金)には明治記念館において記念式典を開き、多くの会員、来賓の方々にご参加を頂き盛大に執り行うことができました。改めまして会員の皆様と関係者の皆様に御礼を申し上げます。

そして記念式典以降には、黒部ダム見学、写真コンテスト等の記念行事も実施させて頂きまし

た。また私たちの仕事の魅力を更に多くの方にご理解頂けるように「知っていますか？土木のこと。技術者のこと。」のパンフレットも作成、配布させて頂きました。技士会と致しましては、設立20周年は一つの通過点であり、今年も様々な企画を考え実行していきたいと考えております。

会員の皆様におかれましては今後ともご協力を賜りたく宜しくお願い申し上げます。

今年も東京五輪、インフラ整備事業等、東京を中心に活躍される会員の皆様の力が発揮できる場が多くあります。皆様の知識と知恵を持って素晴らしい仕事をされることを祈念致しております。

最後になりますが、今年も会員皆様方のご健勝とご活躍をお祈り申し上げまして新年のご挨拶とさせていただきます。





東京土木施工管理技士会 副会長
戸田建設株式会社
執行役員土木工事統轄部長

山田 裕之

「生産性向上」実現のために 一働き方の意識改革を—

謹んで新年のお慶びを申し上げます。

2020年の東京五輪を控え、建設各社の業績は好調さを示しています。一方で、熊本の地震など、相変らず自然の驚異は繰り返され、安全で安心な社会基盤を整備する我々の使命・役割は重要です。

国交省は、「i-Construction」を推進して、2025年度までに、建設現場の生産性を2割向上させることを目標としています。技能労働者の育成および確保を行うとともに、今まで以上に、限られた人数、定められた時間内で、より多くの成果をあげる必要があります。

東京土木施工管理技士会も20周年を迎えました。今までの功労者に対して敬意を表するとともに、各記念事業を実施しました。そして、この「土木の世界」をより多くの人々に理解してもらうための、広報活動を展開中です。

現在「生産性向上」をテーマにいろいろな工夫、取り組みがされています。ICTを駆使した、施工技術、施工管理を行いながら、省力化、効率化を図り、今まで以上の安全・品質・出来形の確保を図ろうとしています。また、プレキャストのコンクリート製品を積極的に利用して、工期短縮・省力化を実現します。

一方で、生産性向上と関連して切り離せないのが「長時間労働の是正や時間外の削減」の問題です。我々は自然相手の商売のため、現場は思うように進みません。しかしながら、まずは、一人ひとりが就業時間内を真剣勝負で、一分一秒も無駄にしない心意気で、さまざまな工夫をしなければと思います。そこにICTという「ツール」を上手く使いながら生産性向上を実現することが求められます。各工事で、「生産性向上」の意識を、全員で共有して進めてください。

若い人たちが建設業界に憧れ、魅力のある世界とするためにも、休日の確保、時間外の削減を必ず達成する必要があります。ゆとりの時間を確保して、その時間を、健康のため、自身の向上のため活用してください。発注者や協力会社の理解を求めながら、業界全体で取り組むべき課題です。

以上、生産性向上を果たすことは、建設業界の発展のため必要不可欠の課題です。一人ひとりが、一つひとつの工事が前向きに取り組む必要があります。小さな工夫・改善を積み重ね、その努力を継続してください。

最後に、会員皆様のご発展とご健勝を心から祈念して、新年のご挨拶と致します。



東京土木施工管理技士会 副会長
清水建設株式会社
執行役員土木東京支店長

杉原 克郎

魅力ある建設業を目指し、 土木に誇りを持ち、発信していこう

2017年の新春を迎え、謹んで新年のご挨拶を申し上げます。

昨年公表された国勢調査で、日本の総人口が、大正9年の調査開始以来はじめて減少に転じました。また生産年齢人口減少による経済の停滞・縮小への懸念が広がっています。

こうした中、政府による「未来投資会議」や「働き方改革実現会議」などが立て続けに開催され、人口減少社会の突入に向けて、将来にわたって経済成長を持続していくための「担い手の確保」と「生産性の向上」をキーワードにした議論が進められています。

「未来投資会議」の第1回会議では、「建設現場の生産性を2025年度までに2割向上を目指す」という方針が掲げられ、働き方改革実現会議では、労働時間の上限規制等も含め今年3月末までに実行計画が策定されることになっています。

我々建設業においては、防災・減災、インフラ整備に加え、社会資本の老朽化に対応するため、既存施設の維持管理や有効利用を含めたトータルとしてのストック効果を最大化させるための安全・安心な社会資本整備を進めていくという責務があり、そのためには、担い手確保・育成と生産性の向上といった課題に対してスピード感をもって取り組まねばなりません。

そのためには、我々が実体験として持っている、ものづくりの面白さ、大切さ、達成感といった土木の魅力と、ワークライフバランスの充実に向けた意識改革の積極的な取り組みについて将来を託す人材に誇りを持って伝えていくことが肝要であり、そのためには積極的な外部発信が重要です。

当会では、昨年、創立20周年記念事業として、土木の紹介パンフレットの作成や、「土木のある風景」写真コンテスト、黒部ダムをはじめとする現場見学会を実施してきましたが、今年も引き続き、建設業への理解促進、若年技術者の確保・育成等に向けた活動をしていきたいと考えております。

これらの活動を推進するためには、会員皆様のご理解とご協力が必要です。今後ともより一層のご支援をお願い致しますとともに、会員の皆様のご健勝とご発展を祈念致しまして、年頭のご挨拶とさせていただきます。